西武鉄道 NEWS RELEASE

２０２５年5月１４日

２０２５年度　鉄道事業設備投資計画

安全・安心なサービスを追求して積極的に投資を拡充
「沿線価値向上」・「デジタル化」・「働きがい向上」へ総額４２４億円

西武鉄道株式会社（本社：埼玉県所沢市、社長：小川 周一郎）は、**安全・安心なサービスの更なる追求を事業の根幹に「沿線価値向上」・「デジタル化」・「働きがい向上」を重点テーマ**とし、２０２５年度に４２４億円の鉄道事業設備投資を実施します。安全・安心なサービスの提供と、社会的課題への継続的な対応により、「住みたい沿線」「訪れたい沿線」の実現を目指してまいります。

≪２０２５年度 鉄道事業設備投資の概要≫

【事業の根幹】安全・安心なサービスの追求

（１）より安心してご利用いただけるバリアフリー設備へ
- ホームドア整備、定位置停止装置(TASC)整備

（２）より安全な踏切へ
- 高規格な踏切支障検知装置の新設・更新、踏切異常検知システムの新設

（３）より安心してご乗車いただくための災害対策・防犯対策
- 落石防護の推進、耐震補強の推進、車内防犯カメラの整備推進

（４）安全を追求し社員の安全意識と知識を教育する
- 研修センターの設備の更新（安全共育室）

重点テーマ①　沿線価値向上

（１）連続立体交差事業の推進
- 連続立体交差事業（東村山駅付近、中井～野方駅間、井荻～西武柳沢駅間、野方～井荻駅間）

（２）より環境にやさしい設備の積極的な導入
- ４００００系通勤車両導入、サステナ車両導入、山口線車両新造

重点テーマ②　デジタル化

よりスマートなサービスの提供へ
- 乗車券システムの進化、GS システムの更新

重点テーマ③　働きがい向上

働く社員の職場環境の改善・整備
- 働きがいのある環境づくりや職場環境の整備により、従業員の満足度向上へ

詳細は、別紙のとおりです。

【別紙】

２０２５年度　鉄道事業設備投資計画について

【事業の根幹】安全・安心なサービスの追求

「より安全な」・「より快適な」設備の追求

ご利用いただくお客さまと西武線沿線にお住まいの方々の安全な暮らしを最優先に考えた安全対策投資に重点をおくとともに、今まで以上に快適にご利用いただけるサービスの提供を目指します。

(1)より安心してご利用いただけるバリアフリー設備へ

・ホームドア整備

お客さまのホーム上からの転落や列車との接触を防ぐため、ホームドアの整備を推進いたします。今年度は東村山駅（高架化後新宿線下りホーム）、保谷駅、新所沢駅にてホームドアの稼働を予定しております。また、２０２６年度以降も以下駅へのホームドア整備を予定しております。

【今年度の稼働を予定する駅】

東村山駅（高架化後新宿線下りホーム）、保谷駅、新所沢駅

【２０２６年度以降の稼働を目指す駅】

２０２６年度稼働目標：池袋駅（７番、特急ホーム）、中村橋駅、富士見台駅、新桜台駅
２０２７年度稼働目標：池袋駅（１番ホーム）、東長崎駅、大泉学園駅、花小金井駅
２０２８年度稼働目標：椎名町駅、下落合駅、中井駅、田無駅
連続立体交差事業とあわせて整備：東村山駅（高架化後新宿線上り・国分寺線・西武園線ホーム）

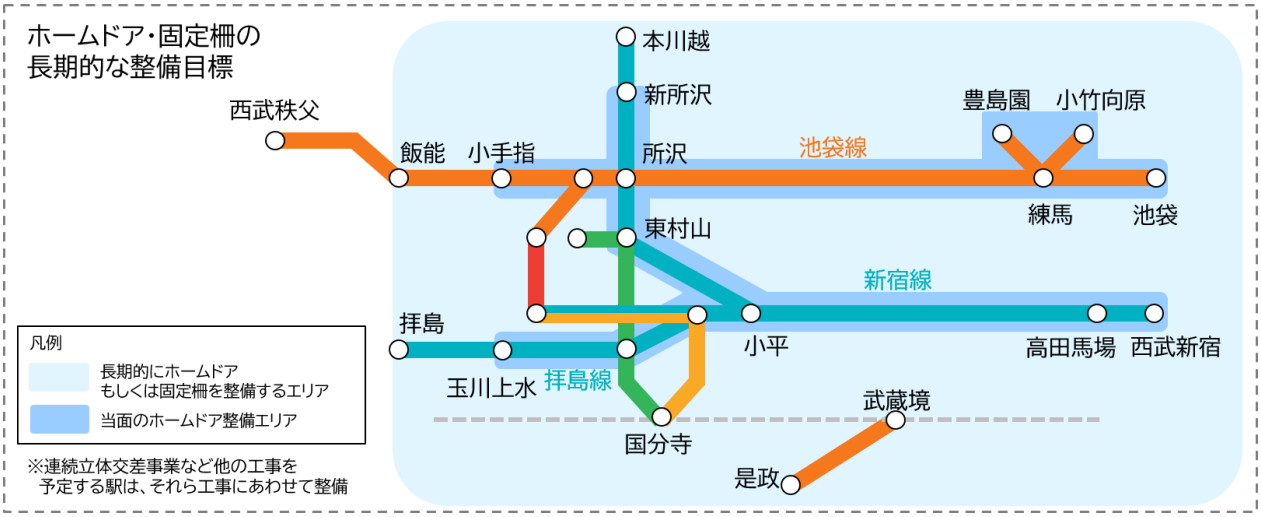
※部材の調達状況などにより計画を見直すことがあります。

【ホームドアおよび固定柵の長期的な整備目標】

当社では以下の通り、ホームドアおよび固定柵の長期的な整備目標を定めております。本目標に従い、長期的に整備を進めてまいります。

・ホームドアもしくは固定柵の全駅（東飯能～西武秩父駅間各駅を除く）への整備を目指します。
・当面は、池袋～小手指駅間、西武新宿～新所沢駅間、小平～玉川上水駅間、豊島線、西武有楽町線各駅へ、おおよそ２０３０年代半ばまで※のホームドア整備を目指します。

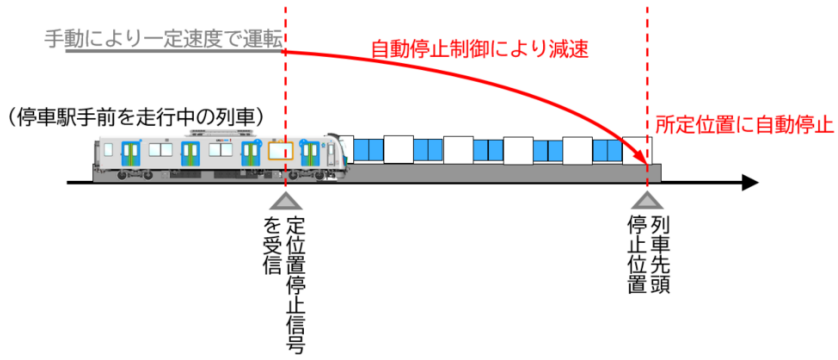
※連続立体交差事業など他の工事を予定する駅は、それら工事にあわせて整備を進めます。



・TASC※整備

今後ホームドア整備駅を拡大するにあたり、定時運転および乗務員負荷軽減の観点から TASC 整備を進めてまいります。本システムは、列車が駅に停車する際に自動的にブレーキをかけて定位置に停止させる運転支援システムです。今年度から地上および車上に機器を設置する工事に着手し、２０２７年度の池袋～小手指駅間、豊島線、西武有楽町線各駅への導入を目指します。

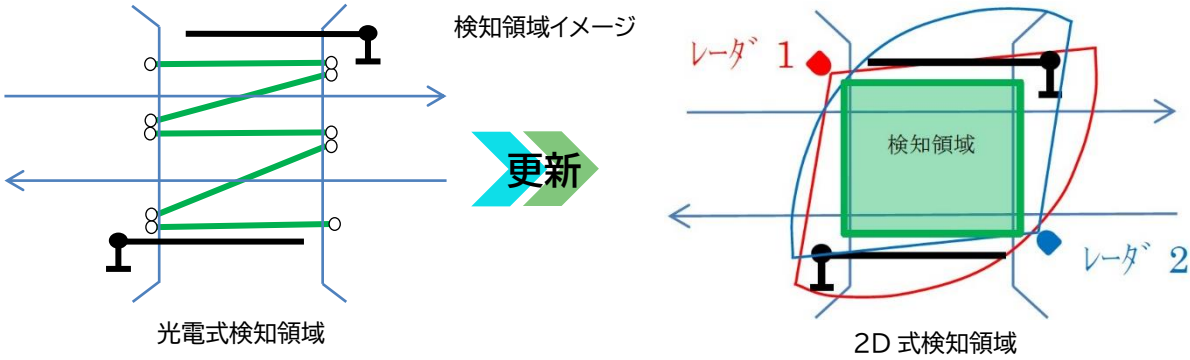
※定位置停止装置（TASC：Train Automatic Stop-position Controller）



(2)より安全な踏切へ

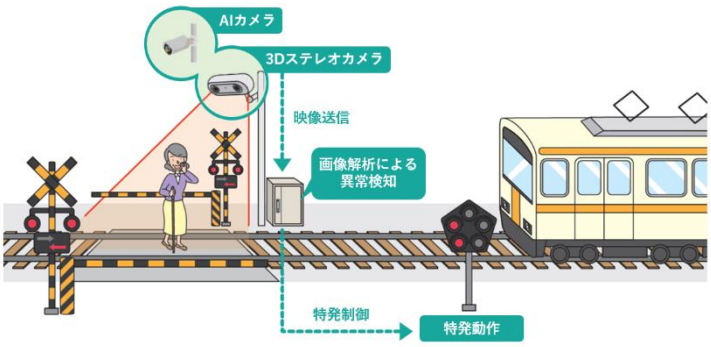
・高規格な踏切支障検知装置の新設・更新

踏切支障検知装置の高規格化を進め、従来の「線」で検知する方式（光電式）から、「面」で検知する方式（2D 式）に更新することにより、検知能力を向上させて安全対策を強化します。今年度は新設２ヵ所・更新１０ヵ所、計１２ヵ所の踏切へ設置予定です。



・踏切異常検知システムの新設

踏切内にとり残された「人」を画像解析により検知し列車に知らせる「踏切異常検知システム」を開発し、２０２４年度までに１４ヵ所の踏切に設置しました。今年度は２ヵ所の踏切に新設します。



(3)より安心してご乗車いただくための災害対策･防犯対策

・落石防護の推進

斜面からの落石が列車に衝突するのを防ぐため、線路に沿って落石の進入を防止する柵を整備しています。今年度は、西吾野駅構内および西吾野～正丸駅間に整備します。



落石防護設備

・耐震補強の推進

２０２３年４月に耐震補強に関する省令等の改正が行われたことを受け、対象となる高架橋の柱に対し、２０２４年度より補強工事に着手しています。今年度は４４本の補強工事を実施し、２０２７年度末までに補強を終える予定です。



耐震補強対象の柱(例)

・車内防犯カメラの整備推進

車内の防犯対策・安全性向上のため、車内防犯カメラの整備を推進します。２０２５年３月末時点で、全車両数に対する設置割合は約８５％であり、今年度末までに１００％を目指します。また、２０２６年度末までに記録式カメラ設置車両は、リアルタイムに映像を確認できる通信式カメラへの置き換えを進めます。



車内防犯カメラ(通信式カメラ)

(4)安全を追求し社員の安全意識と知識を教育する

・研修センターの設備の更新（安全共育室）

自社・他社で発生した過去の重大事故等について学ぶための社員教育施設として「事故情報展示室」を研修センター内に整備し２００９年３月から活用してきました。「過去の事故情報展示」から「輸送の安全教育施設」への転換を果たすため「展示エリア」に加え「学習エリア」を新たに設置し、役員・社員に対し学習プログラムに沿って安全教育を実施する「安全共育室」としてリニューアルします。



安全共育室

重点テーマ①　沿線価値向上

(1) 連続立体交差事業の推進

連続立体交差事業により、踏切での慢性的な交通渋滞の解消、道路と鉄道それぞれの安全性の向上、また鉄道により分断されていた地域の一体化が図られます。

・東村山駅付近連続立体交差事業（高架化）

２０１２年１０月に都市計画決定され、２０１３年１２月に事業認可を取得、２０１５年１月に工事に着手しました。この事業が完了すると５ヵ所の踏切が除却されます。

今年度は、６月２８日深夜に新宿線下り線の高架化切替を行います。これにより、この区間にある府中街道などの４ヵ所の踏切において遮断時間が短くなることが見込まれ、踏切による交通渋滞が緩和されます。今後は、国分寺線・西武園線及び新宿線上り線の早期の高架化に向け、工事を進めてまいります。



久米川駅方面から東村山駅を臨んだ工事状況
（左側が新宿線下り線の高架橋）

【参考】新宿線東村山駅付近連続立体交差事業
https://www.seiburailway.jp/safety/continuousgradeseparation/higashimurayama/

【参考】２０２５年４月９日リリース
「６月２９日（日）初電車より東村山駅付近の新宿線下り線を高架化します」
https://www.seiburailway.jp/newsroom/news/20250409_higashimurayamarenritu

・中井～野方駅間連続立体交差事業（地下化）

２０１１年８月に都市計画決定され、２０１３年４月に事業認可を取得、２０１４年１月に工事に着手しました。この事業が完了すると７ヵ所の踏切が除却されます。今年度は、駅部の掘削工事および取付部の掘削工事･躯体構築工事を行います。

【参考】新宿線中井～野方駅間連続立体交差事業
https://www.seiburailway.jp/safety/continuousgradeseparation/nakainogata/

・井荻～西武柳沢駅間連続立体交差事業（高架化）

２０２１年１１月に高架方式で都市計画決定され、２０２４年３月に事業認可となりました。この事業が完了すると１９ヵ所の踏切が除却されます。事業の早期完成を目指し、工事着手に向けた準備を事業主体である東京都や地元自治体と協力し進めています。

・野方～井荻駅間連続立体交差化計画の早期事業化に向けた準備

野方～井荻駅間は、２０１６年３月に東京都により新規に着工を準備する区間として社会資本総合整備計画に位置付けられました。引き続き、連続立体交差化計画の早期事業化に向けて、事業主体である東京都や地元自治体と協力し準備を進めます。

２０２６年度以降に予定している事業

・新宿線 有料着席サービスの刷新

現在、新宿線で運行している10000系車両（ニューレッドアロー）について、ライナー型車両に置き換え、停車駅など運行形態も変更しサービスを刷新いたします。2026 年度中の運行開始を予定しており、柔軟な運行形態やお客さまの着席機会の拡充など、サービス向上を図ってまいります。

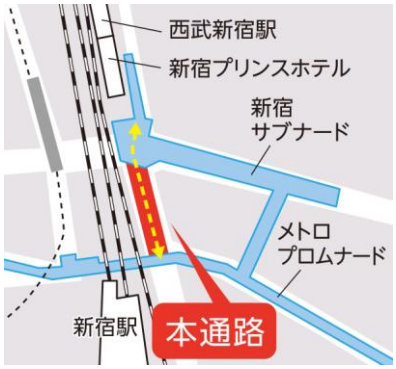


置き換え対象の 10000 系車両

・西武新宿 新たな地下通路整備の計画

２０２１年度に、西武新宿駅からつながる新宿サブナードとメトロプロムナードを結ぶ新しい地下通路が、都市計画決定されました。これを受け、引き続き本通路の早期実現に向け、具体的な検討および関係者との協議を進めます。

本通路の開通により、西武新宿駅をご利用のお客さまの新宿駅（JR 線・東京メトロ丸ノ内線）との乗換利便性および、まちとまち、駅とまちの回遊性の向上を目指していきます。



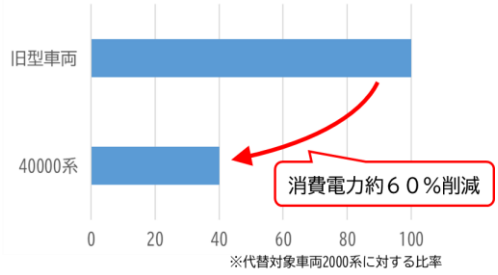
(2)より環境にやさしい設備の積極的な導入

・４００００系通勤車両導入

旧型車両より省エネルギー化（消費電力６０%削減）、低騒音化した４００００系通勤車両を、今年度は3編成２４両導入します。



40000系



４００００系増備による消費電力削減効果

・サステナ車両※導入

２０２４年度に小田急電鉄より譲り受けた８０００形１編成の整備・改修が完了し、８０００系として２０２５年５月に運行開始します。さらに今年度は、東急電鉄より９０００系を３編成譲り受ける予定です。

※他社から譲受した VVVF インバータ制御車両を西武鉄道独自の呼称として定義



整備･改修が完了した「8000 系」

【参考】２０２３年９月２６日リリース
「西武鉄道と東急電鉄・小田急電鉄「サステナ車両」を授受
各社連携して、SDGs への貢献を加速してまいります」
https://www.seiburailway.jp/newsroom/news/20230926_sasutenatrain/

・山口線車両新造

２０２５～２０２７年度にかけ、山口線（レオライナー）の車両全３編成を順次更新します。１９８５年の山口線新交通システムの開業時に導入された８５００系車両は、当社として初めて VVVF インバータ装置を採用した省エネ車両として、開業時より通勤・通学、ベルーナドームや西武園ゆうえんちへ来場される多くのお客さまにご利用いただきました。新造車両は、埼玉西武ライオンズをイメージしたデザインへの変更や輸送力強化を図る車内設備の変更が施されます。



© SEIBU Lions/TEZUKA PRODUCTIONS

山口線新造車両　第1編成イメージ

【参考】２０２５年１月２２日リリース
「８５００系の後継として山口線（レオライナー）に新型車両を導入します」
https://www.seiburailway.jp/newsroom/news/20250122_8500keishinzou/

重点テーマ②　デジタル化

よりスマートなサービスの提供へ

・乗車券システムの進化

西武線内のターミナル駅、観光地周辺の２１駅にて、２０２４年１２月よりクレジットカード等のタッチ決済乗車サービスの実証実験を開始し、QR 企画乗車券の自動改札機でのご利用も可能となりました。

今年度は西武線内の約５０駅、２０２６年度には西武線内の全駅にて、タッチ決済乗車サービスと QR 企画乗車券のご利用を可能にするべく自動改札機の整備を進めるなど、お客さまにより便利に、よりシームレスにご利用いただくために、乗車券システムを進化させてまいります。

※「QR コード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



自動改札機のイメージ

・GS システム※の更新

２０１７年から運用している GS システムは、駅係員の業務フローを踏襲し、一連の連絡業務がすべてスマートデバイス上で完結するシステムです。このシステムに、車いすご利用のお客さまのスムーズなお手伝いを目的として事前受付システムを導入します。お客さまに事前予約していただくことにより、駅員不在時間帯を含むどの時間帯もカバーでき且つスムーズなご案内が可能になります。

※車いすご利用のお客さまご案内業務支援システム（GS:Guidance for Customers Support）

重点テーマ③　働きがい向上

働く社員の職場環境の改善･整備

・働きがいのある環境づくりや職場環境の整備により、従業員の満足度向上へ

従業員が働きやすい・働きがいのある環境を整え、将来を担う人財を確保する観点から、職場環境の整備を行います。現業施設の建て替え、宿泊施設の個室化、駅の従業員用休憩室のリニューアル等により、従業員のプライバシー確保や労務環境の改善により、従業員の満足度向上を図ります。



昨年度整備した従業員宿泊施設



昨年度整備した乗務員休憩施設

◇お客さまのお問合せ先

西武鉄道お客さまセンター TEL. ０５７０-００５-７１２

音声ガイダンスのご案内により、メニューをお選びください。

［営業時間：９時～１７時（１２/３０～１/３を除く）］

以　上